

応募フォーム

※申請時は、合計で5~6ページ程度の枚数になるよう調整してください。

2024年度GPSP(R2030 推進のためのグラスルーツ実践支援制度) 応募フォーム(word)

応募時は、このフォームをPDF化のうえ、専用Formsへのuploadにより提出してください。

2024年6月7日

取組み代表者	氏名	前原 寛子		
	区分(右の①②③の何れかに○)	○	①大学教員	
			②附属校教員	
			③職員	
	所属学部、学校、部課等	人間科学研究科		
	職名	助教		
	教職員番号	2200163		
メールアドレス				
プロジェクトマネージャー (PM)	氏名	埜口 広和		
	所属学部、学校、部課等	社会共創推進課		
	職名	課長補佐		
	メールアドレス			
取組み名称	錯視のまち茨木、茨木観光促進のための新たな社会共創価値創出プロジェクト			
キーワード(3つまで)	・錯視のまち ・社会共創 ・観光促進			
申請区分 (何れかに○)		① 大学・学校を横断する教職員で構成された共創プロジェクト		
		② 大学教員・附属校教員・職員(の2者以上)を横断する教職員で構成された共創プロジェクト		
	○	③ 教職員複数名と学園外のメンバーで構成し、そのリソースやナレッジを取り込んだ共創プロジェクト		
新規/継続区分 (何れかに○)		2023年度より引き続き応募する(継続プロジェクト)		
	○	2024年度より新規に応募する(新規プロジェクト)		
分担者(本務または兼務教職員) ※例示表示は消して入力してください	分担者氏名	分担者所属		分担者職名
	北岡 明佳	総合心理学部		教授
	高橋 康介	総合心理学部		教授
	高橋 潔	総合心理学部		教授
	石崎 祥之	経営管理研究科		教授
	三宅 雅人	社会共創推進本部		本部長・教授
	長谷川 哲	総務部		担当次長

応募フォーム

※申請時は、合計で5~6ページ程度の枚数になるよう調整してください。

	埜口 広和	社会共創推進課	課長補佐
代表者+分担者 構成人数	8名 (内訳:代表者1名、分担者7名) ※下欄の連携協力者は構成人数に含めない		
連携協力者(い る場合記入。連 携先学外者、学 生、大学院生 等)	氏名	所属	職名
	田中 雅之	一般社団法人茨木市観光協会	副会長
	鳥山 悟	一般社団法人茨木市観光協会	事務局長
	笹井 直木	茨木商工会議所	専務理事
	西村 宏史	茨木商工会議所	理事・事務局長
予算執行方法 (何れかに○)	■代表者または分担者の職員の所属部課にて予算執行管理 (執行部課名称:) ※各事務室、各課・オフィスに応募前に了解を得ておいてください		
	○ ■人事部執行サポートチームにて予算執行管理 ※大学教員・附属校教員のみで構成される(=職員が参加しないプロジェ クトの場合)のみ選択可能		
申請金額	万円 ※応募額は1万円単位とする。 ※応募額は、代表者および分担者のうち本務教職員数×30万円の額を申請で きるが、上限を200万円とする。		
以下、取組み内容を記載(記載の内容・文字量に応じてスペースを調整してください)			
0. 2023年度からの継続プロジェクトの場合、2023年度の実績の到達点や課題について、 概要を明記してください。			
(2024年度からの新規応募プロジェクトは記載不要。スペースを適宜調整してください)			
1 取組みの概要と意義(R2030推進との関連性や貢献度を含めて記載してください)			
1. 背景・状況			
➤ R2030における「社会共生価値の創造を志向し、多様なネットワークとのつながりに開かれ た大学」を目指した取組みの一環として、一般社団法人茨木市観光協会と協力し「錯視のまち 茨木、新たな社会共創価値創出プロジェクト」を進めている途上にある。			
➤ OIC新棟1F SP Lab 6においては高橋康介教授による「さっかくを見る試す遊ぶ学ぶ知覚 心理学ラボ」を開設し、その研究成果を社会共創の取組みの一環として学生、教職員、一般 市民に開放し、ソーシャルコネクティッドキャンパスの一部としての役割・機能を担っている。			
➤ 2024年5月には茨木童子人形グッズを入れた透明な袋内の同グッズ背面に北岡教授制作 の錯視デザインの印刷物を同封するという試みを行い、実際の販売も行っている。これによ り、錯視デザインという潜在的な観光資源が、実際に可視化され、茨木市や茨木市観光協会と 立命館大学の連携成果となっている。			
2. 概要			

応募フォーム

※申請時は、合計で5~6ページ程度の枚数になるよう調整してください。

- 引き続き立命館大学の地域貢献・社会共創価値創出プロジェクトの更なる進展に向け、総合心理学部の錯視研究を今度は安威川ダム吊り橋整備の取り組みに活かす。同整備事業の一部エリアは、2024年4月23日よりオープンしており、今年中に日本最長(420m)となる吊り橋が建設される予定となっている。茨木市観光協会と連携し、同吊り橋に至るアプローチ(歩道)等に錯視デザインを施し安威川ダム関連施設一帯を日本唯一の場所として確立させ、恒常的な観光客誘致につなげる。合わせて錯視研究者、研究を望む学生が集い、その成果に興味関心をもつ市民が集う地域「茨木」を「錯視のまち」として定着させ茨木の新たな観光資源創出を目指す。

3. 意義・目的

- (1) 安威川ダム整備事業において、日本最長の吊り橋事業に錯視を掛け合わせることで、長さのみならず、興味関心を高める付加価値を加える。前述の「茨木童子と錯視」、今般の「吊り橋と錯視」といったコラボを、「錯視のまち茨木」というキーワードを定着させる契機とする。以後も絶えず「錯視」をテーマとした成果物創出を茨木市観光協会と連携・継続させていくことで、「錯視」を茨木の観光資源として定着させ、観光客誘致にもつなげ、茨木の経済活性化を目指す。
- (2) 本事業に立命館大学総合心理学部が積極的に関与していくことで、「立命館大学」「総合心理学部」の認知度を高め、立命館が社会貢献、社会共創価値創出に貢献する大学としてのプレゼンスを向上させる。
- (3) 総合心理や錯視研究を志す研究者、学生が集う場所として茨木を盛り上げ、国内外から多様なステークホルダーが関わり耳目を集める場所としての「茨木」を確立させる。

2 ソーシャル・インパクトのある成果目標(期待される効果・波及)とその実現性

- (1) 成果目標:日本一(420m)の吊り橋と立命館大学総合心理学部錯視研究のタイアップはこれまでにない取り組みとなる。錯視研究の発表に留まらず、吊り橋を単純に歩いて渡るという行為に、視覚や心理面でも楽しめる要素の追加は、社会への新しい錯視の楽しみ方、体験方法=「社会への新しいアトラクションの楽しみ方」提示にもつながる。それにより観光客誘致を更に促進することができれば、共創による新たな観光資源創出、観光客誘致といった地域経済を活性化させる一つのモデル事業ともなる。茨木から他府県、国外へも波及する可能性もあり、ソーシャル・インパクトを残し得る成果が期待できる。
- (2) 実現性:茨木市観光協会とこの間、協議を重ねてきた案件であるため、安威川ダム整備事業、吊り橋アプローチへの錯視デザイン設置の実現性が高い。同観光協会、総合心理学部、社会共創推進課も、茨木童子人形グッズへの北岡教授制作物同封関係で、連携を密にとっており、連携面での不安もない。今後は茨木商工会議所の協力のもと、積極的に学生・教職員・市民等を巻き込み、多様なステークホルダーが交わる学びの場を提供する機会の実現を目指す。

3 取組み計画と方法、スケジュール、メンバー編成と分担体制(共創を生み出す観点を踏まえて記載してください)

応募フォーム

※申請時は、合計で5~6ページ程度の枚数になるよう調整してください。

6月	・安威川ダムにおける錯視設置場所を確定する
7月	・学生より錯視デザインの募集を行う
8月	・デザインを締め切る
9月	・錯視の展示をおにクル、イオンモール茨木、学内等で行う
10月	・市民からの投票を促す
11月	・市民からの投票、総合心理学部教員、茨木市観光協会の審議を総合的に鑑み、安威川ダムに反映するデザインを決定する
12月	・安威川ダム吊り橋のオープンに合わせ、錯視デザインを施工する
1月	・安威川ダム吊り橋×錯視デザインを社会に発信する
2月	
3月	・成果をまとめる

4 「大学教員」が代表者または分担者として参画するプロジェクトの場合、以下の設問について必ず記載してください。(大学教員が参画しないプロジェクトは記載不要)

(ご確認のうえ必ず記載してください)

GPSP では募集要項において「教員による研究活動を実施することのみを目的とした活動」は対象外であると記載しています。ついては、「大学教員」が代表者または分担者として参画する取組みについて応募する場合は、今次応募する取組みが、「教員による研究活動を実施することのみを目的とした活動」とは異なるものであることを、以下に具体的に説明してください。

(大学教員が参画しないプロジェクトは記載不要。スペースを適宜調整してください)

本取組みは、「錯視」を軸に観光協会、大学、企業が一体となって新たな観光資源創出を目指す横断型プロジェクトである。本プロジェクトを進展させることで、新たな観光資源創出につながり、「茨木市」全体の経済活性化にもつながり得る。研究活動実施には留まらない、多様なステークホルダーを巻き込んだ、実社会への還元プロジェクトである。

5 経費執行計画(万円単位で記載。予算額が 24,000 円の場合は 2.4 万円と記載願います)

費目	金額(万円)	明細、内訳
展示物用の会場手配、制作物の制作、広報費	万円	会場使用料、錯視展示内容の印刷、掲示費用、広報費用として
錯視デザインの施工費	万円	安威川ダムへ錯視デザインを設置するための施工費用として
交通費	万円	安威川ダムへの複数回往復費用として
その他	万円	必要備品の購入費として
合計	万円	※応募額は1万円単位とする。 ※代表者および分担者のうち本務教職員数×30万円の額を申請できるが、上限を200万円とする。

応募フォーム

※申請時は、合計で5~6ページ程度の枚数になるよう調整してください。

代表者および分担者の氏名・所属、取組み名称、キーワード、
取組み区分、取組み内容は、HP で公表します。

応募前の事前チェックをお願いします。	
事前確認 項目	<input type="radio"/> 代表者・分担者は、本学に所属する教職員(本務・兼務を問わない)で構成されていますか。
	<input type="radio"/> 申請区分に対応した代表者／分担者、連携協力者の構成になっていますか。
	<input type="radio"/> 代表者・分担者が職員の場合は、所属長に事前相談し、承諾を得てしていますか。
	<input type="radio"/> 代表者は他の案件で代表者として申請していませんか(代表者は1人1件)。
	<input type="radio"/> 申請額は、代表者および分担者のうち本務教職員数×30万円、かつ200万円以内になっていますか。

応募締切は、2024年6月10日(月)正午(厳守)です！

以上